



Fukuzawa's Final Chapter: The Ongoing Pursuit of "Independence"

福澤諭吉没後125年
福澤諭吉の臨終
「独立自尊」の誕生

2026年

6月18日(木)→8月29日(土)

開館時間：10：00→18：00

休館日：日曜日・祝日、6月24日(水)・7月22日(水)

8月10日～17日(夏季一斉休暇)

入場料：無料

主催：福澤諭吉記念慶應義塾史展示館

会場：福澤諭吉記念慶應義塾史展示館企画展示室(図書館旧館2階)

108-8345 東京都港区三田2-15-45 慶應義塾三田キャンパス内



画像：福澤諭吉生前最後の肖像写真 明治33年(1900)

福澤諭吉使用印「明治卅二年後之福翁」明治32年(1899)

お問い合わせ

電話：03-5427-1200

メール：info@history.keio.ac.jp

ホームページ：https://history.keio.ac.jp/

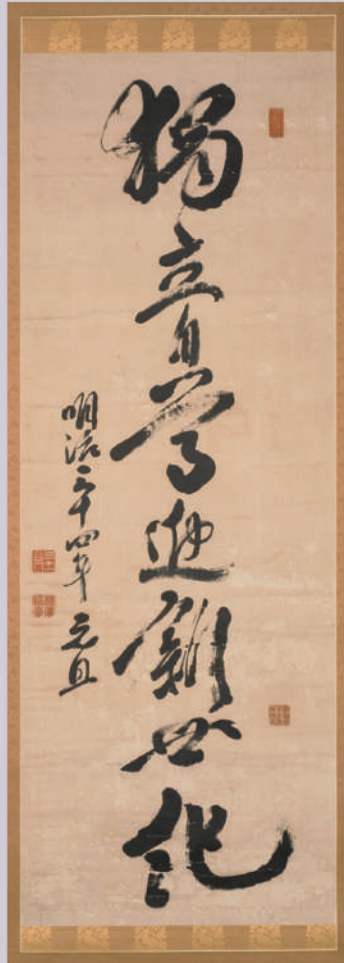
X：@keiohistory

Facebook：@keiohistory

Instagram：@keio_history



世の中を デングリ返せ



③

福澤諭吉の死去は明治34年（1901）2月3日、ちょうど125年前にあたります。本展ではこれを機会として、改めて福澤の死の周辺を振り返ります。

福澤はいつから老いを自覚したのでしょうか。晩年の福澤の言葉を見ていくと、その中には次世代を意識した形跡が多く見られるようになります。自分の死後も「文明」の探求が継続されていくかを思うと「無限の苦痛」を感じる、と演説したこともありました。死ぬまで世の中を「デングリ返し」続けようと呼びかける演説もあります。「独立自尊」という言葉が福澤の精神を表わすフレーズとして明確に位置づけられるのは死の1年前です。さらに福澤の脳卒中発症と闘病、そして死に至る経過は、詳細な記録が残されています。

晩年の豊富な資料を通して、福澤が残したかったものは何か、それは残ったのかを考えます。



⑤

シンポジウム

『晩年の福澤諭吉とその死——「修身要領」を中心に』

日時：7月11日（土）14:00～16:30

会場：三田キャンパス西校舎517教室（当日先着400名）

●記念講演

荒俣宏氏（小説家）「修身要領——福澤最後の夢」

●トークセッション

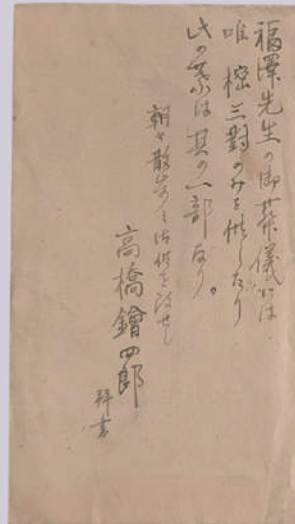
荒俣宏氏 × 米山光儀氏（福澤研究センター顧問、田園調布学園大学学長） × 小山太輝氏（幼稚舎教諭、福澤諭吉昆孫）

司会：都倉武之（福澤研究センター教授）

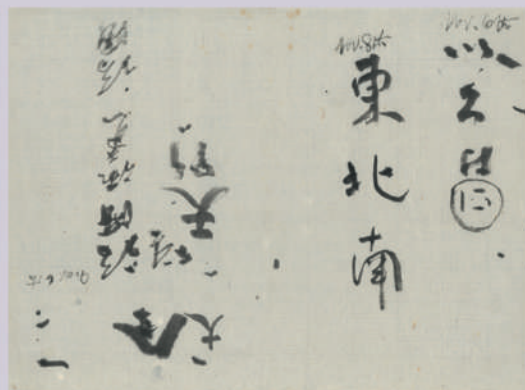
ギャラリートーク

6月26日（金）、7月16日（木）、8月7日（金）

各回14:00～ 定員20名（当日先着）、50分程度



④



②

- ① 福澤諭吉選暦祝の灯台模型 明治28年（1895）
- ② 福澤諭吉脳卒中闘病時のリハビリ反古 明治31年（1898）
- ③ 福澤諭吉筆「独立自尊迎新世紀」 明治34年（1901）
- ④ 福澤諭吉葬儀の祭壇に飾られた桜の葉 明治34年（1901）
- ⑤ 福澤諭吉葬儀当日の写真 明治34年（1901）

①～⑤ 慶應義塾福澤研究センター蔵



①